

アジア諸地域の交流と繁栄 1

導入

YWA6D1-Z1J1-01

到達目標

- ① 宋～明代における中国の統治体制と社会構造の変化を捉える。
- ② 中国周辺の諸民族・諸国家の動向と、東西交流の発展について理解する。

1 唐代との比較から宋代の政治・社会について考える

📌 のつけどころ

新たな主役である新興地主層に注目！

唐代の政治を担ったのは、魏晉南北朝以来の貴族であったが、唐代中期以降、科挙官僚や武人勢力・新興地主層が勢力を伸ばしていった。武人勢力が割拠した五代十国の時代に貴族の没落は一層進み、再び中国を統一した宋の時代には、**士大夫層**が文人官僚・新興地主として政治・経済の主役となる。士大夫層の活躍を経済面から支えた産業の発展を含めて整理しよう。

唐と宋

唐		宋
皇帝を頂点とする中央集権体制 律令制の下で三省六部が政治を担う	政治体制	皇帝が全権を掌握する君主独裁体制 三省は有名無実化、宰相が皇帝を補佐
貴族（門閥貴族）	支配層	新興地主層（形勢戸）
科挙（蔭位の制で貴族を優遇）	官吏登用	科挙（殿試を創設）
均田制→荘園の拡大	土地制度	荘園が一層拡大
租調庸制→両税法	税制	両税法
営業の時間・区域を政府が厳しく統制	商工業	営業の自由化→鎮が発展
銅銭	貨幣	銅銭・紙幣（交子・会子）など
政治・行政の中心	都市の性格	経済の中心
陸路に加え海路も発達、ムスリム商人の来航増加→広州に市舶司を設置	対外貿易	南海貿易などが一層活発化 →泉州・明州などにも市舶司を設置
華北で二年三毛作が普及 江南で水稻栽培の技術が発展	農業	干拓による新田開発、占城稻の導入など →江南の開発が飛躍的に進展



☑ チェック

- ☑ 北宋を開いた①_____（太祖）は文治主義を採用し、五代十国の時代に広がった②_____政治の風潮を打破しようとはかった。
- ☑ 科挙の最終試験として、皇帝自らが試験官を務めて宮中で実施される③_____が創設された。科挙の合格者は皇帝の門下生と見なされ、皇帝と科挙官僚の結びつきが強まった。
- ☑ 科挙合格のための勉強には十分な経済力が必要であったことから、大土地所有を行い、小作農である④_____などに耕作を行わせる新興地主層（形勢戸）から、科挙官僚が輩出することとなった。⑤_____や詩文の教養を背景に社会の支配階層となった人々を士大夫という。
- ☑ 唐代には市（長安の東市・西市など）以外での商業活動が禁じられ、営業時間も厳しく規制されていた。一方、宋代には経済活動が自由に行われ、草市などから鎮と呼ばれる地方都市が生まれ、都市には同業組合である⑥_____や作も生まれた。
- ☑ 黄河と大運河の結節点に位置する北宋の都⑦_____は、物資の集散地としても栄えた。
- ☑ 浙江省の⑧_____を都とする南宋の時代には、江南が“⑨_____”と称されるほどの穀倉地帯となり、⑩_____などの商品作物の栽培も盛んになった。

空欄の解答

- ① 趙匡胤 ② 武断 ③ 殿試 ④ 佃戸 ⑤ 儒学 ⑥ 行
⑦ 開封 ⑧ 臨安 ⑨ 蘇湖（江浙）熟すれば天下足る ⑩ 茶

2 宋と北方民族の関係について考える

📌 のつけどころ

遼・西夏・金・元の支配体制と宋との関係に注目！

文人官僚が全官僚機構を押さえる文治主義を採った宋は軍事力が弱く、北方民族の相次ぐ侵入に悩まされた。ついには南宋がモンゴル民族の元に滅ぼされ、中国全土が非漢民族の支配下に置かれる事態となる。各民族の動向を混同しないよう、整理しておこう。

遼・西夏・金・元

国名	民族	支配体制の特色など	宋との関係
遼	契丹 (モンゴル系)	部族制・州県制による二重統治体制	澶淵の盟を締結(1004) …北宋を兄とし、歳幣を得る
西夏	タングート (チベット系)	東西交易を振興する一方、宋を圧迫	慶暦の和約(1044)を締結 …北宋に臣下の礼をとり、歳賜を得る
金	女真 (ツングース系)	部族制(猛安・謀克)・州県制による二重統治体制	靖康の変(1126～27)で北宋を滅ぼす →華北を支配下に入れる 南宋を臣下とし、歳貢を得る
元	モンゴル民族 (モンゴル系)	要職をモンゴル人が独占 色目人を財務官僚として重用 →科挙は一時廃止	南宋を滅ぼす(1276) →大都(現在の北京)を都として中国全土を支配

▼北宋と遼・西夏



▼南宋と西夏・金



☑ チェック

- ☑ 中国を支配した非漢民族王朝のうち、鮮卑が建てた①_____は積極的な漢化政策を採ったのに対し、遼・金は二重統治体制を採り、自民族の文化維持に努めた。
- ☑ 遼の二重統治体制は、漢民族・渤海人などの農耕民を南面官の下に中国式の②_____制で統治し、自民族を初めとする遊牧民を北面官の下に従来の部族制で統治するというものであった。
- ☑ 宋は皇帝直属の禁軍を強化する一方で、軍人である③_____の勢力を削減し、集権的な軍制を採ったため、対北方民族の軍事費は国庫を圧迫した。また、遼・西夏・金との講和の代償として毎年多額の銀・絹を贈ったことも、財政逼迫の大きな要因となった。
- ☑ 元では、かつて金の支配下にあった華北の住民は漢人、かつて南宋の支配下にあった江南の住民は④_____と呼ばれ、政治的に活躍する機会が限られた。

⚠ 中国における歴代の非漢民族王朝については、満漢併用制を採った清との支配体制の比較という視点からも理解を深めておくことが重要である。

空欄の解答

① 北魏 ② 州県 ③ 節度使 ④ 南人

3 モンゴル時代の東西交流について考える

⑨のつけどころ

ユーラシア大陸の東西を結ぶ交易ネットワークの構築に注目！

広大な領域を支配するモンゴル帝国（大モンゴル国）が成立し、貿易振興に力を入れたことにより、東西交流は大きく発展し、**ヒトやモノの往来が活発化**した。ユーラシア大陸を西から東へ、東から西へと大移動した旅行家や交易品などについて、理解を深めよう。

ユーラシア大陸の東西を結ぶ交流圏の形成



▼モンゴル帝国・元を訪れた人々

プラノ=カルピニ

…1246年、カラコルム付近を訪問

ルブルック

…1254年、カラコルムを訪問

マルコ=ポーロ

…1275年に大都に到着、1290年まで
フビライに仕える

モンテ=コルヴィノ

…1294年に大都に到着、カトリック
を布教

イブン=バットウータ

…1346年に大都に到着

☑ チェック

- ☑ 宋代以来、中国商人は①_____という帆船を用いて海上交易を活発に行うようになった。ダウ船に乗って中国に来航するムスリム商人も増加する中、宋・元代には海の道が重要な交易ルートとなり、景德鎮などで生産された②_____が大量に輸出された。
- ☑ モンゴル帝国・元は、③_____と呼ばれる駅伝制によって交通網を整備した。商工業が発展する中で発行された④_____と呼ばれる紙幣は、銀とともに広く流通した。
- ☑ 元の都である⑤_____は、大運河と海路によって杭州・泉州・広州といった江南の港市と結ばれ、海路と陸路が連結されて、ユーラシア規模の交易ネットワークが形成された。
- ☑ プラノ=カルピニはイタリア出身の⑥_____派修道士で、教皇の命を受けてモンゴル帝国を訪問し、カラコルム付近でグユクに教皇の親書を渡した。
- ☑ ルブルックはフランス出身の⑥_____派修道士で、フランス国王ルイ9世の命を受け、カラコルムに来訪、モンケに謁見した。
- ☑ モンテ=コルヴィノはイタリア出身の⑥_____派修道士で、ローマ教皇の命で⑤_____を訪れ、カトリックを布教した。これは中国初のカトリック布教であった。
- ☑ マルコ=ポーロは⑦_____の商人で、フビライに仕え、旅行記『世界の記述（東方見聞録）』を残した。
- ☑ イブン=バットウータはモロッコ出身のイスラーム教徒の旅行家で、メッカ巡礼を目的とする大旅行の途上、大都を訪問し、その見聞を旅行記『⑧_____』に記録した。

空欄の解答

- ① ジャンク船 ② 陶磁器 ③ ジャムチ ④ 交鈔 ⑤ 大都
⑥ フランチェスコ ⑦ ヴェネツィア ⑧ 三大陸周遊記

4 明の統治体制について考える

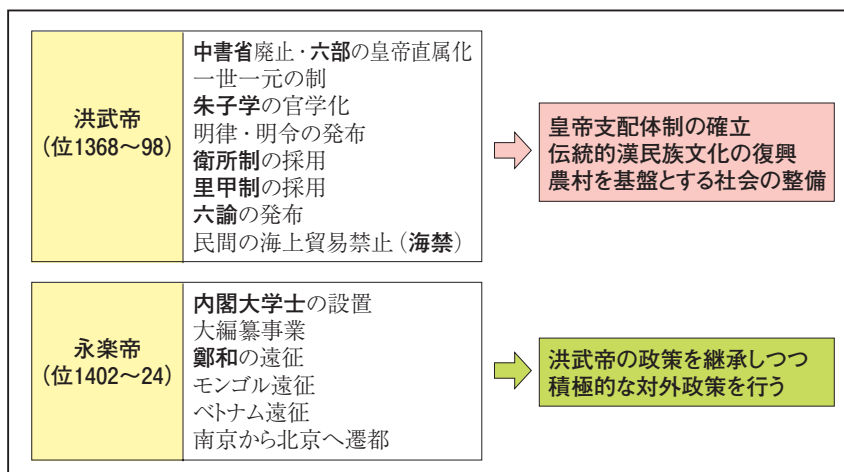
📍 のつけどころ

伝統的中華帝国の復活に注目！

明は江南から興って中国を統一した史上初めての王朝である。元末の混乱を收拾し秩序を回復するため、明の皇帝は伝統的な漢民族文化の復興をはかり、**皇帝に権力を集中させた支配体制**を確立した。対外貿易も政府が管理する**朝貢貿易**に限られ、国家の統制下に置かれた。洪武帝・永楽帝の事績を中心に、明の統治体制の特徴について理解しよう。

明の統治体制と朝貢貿易

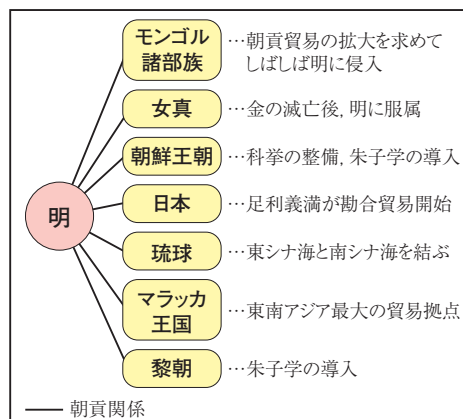
▼洪武帝と永楽帝



▼明の最大領域



▼明初期の朝貢体制



☑ チェック

- ☑ 14世紀にはモンゴル支配下の各地で政権が動揺し、中国では白蓮教徒が起こした①_____の乱により元朝が崩壊した。反乱の中から頭角を現した②_____は1368年に洪武帝として即位し、南京を都として明を建てた。その後、大都を奪われた元の帝室はモンゴル高原に退いた。
- ☑ 洪武帝は皇帝への権力集中をはかり、③_____とその長官である丞相を廃止し、④_____を皇帝直属とした。官制・法制においては、⑤_____を官学として科挙を整備したほか、明律・明令を制定した。軍制においては兵農一致の兵制である⑥_____制を編制した。
- ☑ 農村では⑦_____制を実施し、土地台帳である⑧_____や戸籍・租税台帳である⑨_____を作成して土地と農民を政府の管轄下に置いたほか、⑩_____を發布して民衆の教化を行った。
- ☑ 第2代皇帝建文帝が諸王の勢力を削減する政策を採ったことに対し、燕王の朱棣が1399年に⑪_____を起こし、南京を占領して永楽帝として即位した。永楽帝は皇帝を補佐する機関として内閣を設置したほか、自らの本拠地であった⑫_____に遷都した。
- ☑ 明では民間の貿易は禁じられ、政府が管理する⑬_____貿易が推進された。永楽帝はムスリムの宦官⑭_____に命じて南海諸国遠征を行わせて、諸国に⑬_____を促したほか、モンゴルやベトナムに遠征するなど、積極的な対外進出を行った。
- ☑ 明の⑬_____体制の下で諸地域の交流も活発化し、15世紀初めに中山王によって統一された⑮_____やインド洋と東南アジアの中継地である⑯_____王国が海上交易の要として栄えた。日本でも中国への⑬_____が復活し、室町幕府が⑰_____貿易を行った。朝鮮王朝（朝鮮、李氏朝鮮）やベトナムの黎朝も明に⑬_____を行い、朱子学や明の諸制度などを導入した。

空欄の解答

- | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|-------|
| ① 紅巾 | ② 朱元璋 | ③ 中書省 | ④ 六部 | ⑤ 朱子学 |
| ⑥ 衛所 | ⑦ 里甲 | ⑧ 魚鱗図冊 | ⑨ 賦役黄冊 | ⑩ 六諭 |
| ⑪ 靖難の役 | ⑫ 北京 | ⑬ 朝貢 | ⑭ 鄭和 | ⑮ 琉球 |
| ⑯ マラッカ | ⑰ 勘合 | | | |

5 明末清初の情勢について考える

📍のつけどころ

16～17世紀の東アジア世界の変動に注目！

世界的に商業が発展する中で、海禁を破って貿易の利益を得ようとする諸勢力の動き（北虜南倭）が活発化し、明の朝貢体制は大きく動揺した。東アジア・東南アジアには明の権威に頼らない新興勢力が台頭し、中国東北地方の女真が清を建国するに至った。16～17世紀の経済的活況と、その影響で生じた東アジア世界の変動の様相を理解しよう。

明の対外関係と女真の台頭

▼明の対外関係



▼女真の台頭

ヌルハチ(位1616～26)

女真を統一、後金を建国
八旗の編制

ホンタイジ(位1626～43)

チャハル部を平定
国号を清と改称
朝鮮を服属させる
蒙古八旗・漢軍八旗の編制

☑ チェック

- ☑ 永楽帝の死後、西北モンゴルの①_____が②_____の下で勢力を拡大し、1449年には土木堡で明軍を破り、③_____帝を捕らえた。①_____の勢力が衰えた後は④_____が強化し、ダヤン=ハンの下で内モンゴルを統一した。
- ☑ 16世紀になると、世界的な商業の活発化の中で、明の海禁政策を打破しようとする動きが強まった。北方では④_____の⑤_____が交易を求めて明の北辺に侵入し、南方では後期⑥_____が海上での密貿易や海賊行為を行った。こうした危機を受けて、明は16世紀後半に海禁を緩和した。ポルトガルやオランダが中継貿易に参入するなど、交易の利益をめぐる諸勢力の抗争が広がる中で、明の朝貢体制は動揺し、軍事費が増大して明の財政は圧迫された。
- ☑ 明では16世紀後半の⑦_____帝の時代に⑧_____が中央集権政策を行って国政の再建をはかったが、地方官僚らの反発を招き、政局は混乱した。重税や天災のために各地で反乱が起こり、1644年に⑨_____の反乱軍が北京を占領し、明は滅亡した。
- ☑ ⑩_____は中国東北地方の女真諸部族を統一して1616年に後金を建国し、軍事・行政組織である⑪_____を編制して明に対抗した。第2代の⑫_____は内モンゴルの⑬_____部を従え、1636年には国号を⑭_____と改めた。

空欄の解答

- ① オイラト ② エセン ③ 正統 ④ 韃靼 ⑤ アルタン=ハン
 ⑥ 倭寇 ⑦ 万暦 ⑧ 張居正 ⑨ 李自成 ⑩ ヌルハチ
 ⑪ 八旗 ⑫ ホンタイジ ⑬ チャハル ⑭ 清

M・E・M・O